



こうたろう君の冒険3



学童での生活にも、すっかり慣れたこうたろうくん。毎日、お友だちと元気に遊んでいます。でも、まだ少しだけ、あまえんぼうなところも。「これ、どうやるの？」すぐに誰かに聞いてしまいます。



ある日のこと、こうたろうくんがお絵描きをしていると、3年生のお姉さんがやってきました。お姉さんは、こうたろうくんの絵を見て「もっとこうしたら？」と言いました。



お姉さんの名前は、めぐみちゃん。めぐみちゃんは、いつもみんなのお世話を焼いてくれる、やさしいお姉さんです。でも、こうたろうくんにはなんだか命令されているみたいに聞こえました。



「ここを赤く塗って、次は青よ。」
めぐみちゃんの声は、なんだか強
くて、こうたろうくんは、いやな
気持ちになりました。「ぼくの絵
なのに...」 心の中で、そう思いま
した。



その日、こうたろうくんはお家に
帰って、ママに言いました。「学
童のめぐみちゃんが、ぼくに命令
するんだ。いやだよ。」ママは、
こうたろうくんの話をやさしく聞
いてくれました。



ママは、こうたろうくんの頭をなでて「めぐみちゃんは、こうたろうくんが困っていると思って、手伝ってくれたのかもね。」「自分でできることは、自分でやってみようか。」そう言って、にこっと笑いました。



次の日、学童でこうたろうくんは
おもちゃの片付けをしていまし
た。いつもなら「だれかやって～」
と言ってしまふところですが、今
日は、自分でやってみることにし
ました。



そこへ、めぐみちゃんがやってきて「こうたろうくん、それ貸してあげるよ。」と、おもちゃ箱を差し出そうとしました。こうたろうくんは、にこっと笑って「ありがとう、でも自分でできるよ!」と言いました。



めぐみちゃんは、少しびっくりした顔で「そうなんだ！えらいね！」とこうたろうくんを褒めてくれました。こうたろうくんは、なんだか胸がぽかぽか、うれしくなりました。



それからこうたろうくんは、「自分でできることは自分です」という気持ちを大切にしました。めぐみちゃんも、こうたろうくんが困っていない時は、そっと見守ってくれるように。こうたろうくんは、また一つ、お兄さんになりました。